

## 金融統計によく出てくる用語

金融統計によく出てくるもので、一般的に馴染みの薄い用語について簡単に整理してみました。本ホームページ内の「長野県主要金融経済統計」(リンク)を参照される際の参考にしていただければと思います。

### 【金融統計によく出てくる用語】

未残、平残、約定平均金利、表面預金、実質預金

#### 未残(末日残高)

ある一定期間(月、期、年度等)の最終日の残高をいう。

#### 平残(平均残高)

ある一定期間(月、期、年度等)における毎日の残高の平均値のこと。期間の区切り方により、月中平残、期中平残、年度平残等がある。

算出方法は一定期間内の日々の残高の合計を、その期間中の日数で除す。

#### 未残と平残の例

ここでは、12/1月における×銀行の貸出残高状況を例に挙げて、未残と平残を説明します。

##### 未残の求め方

×銀行の貸出残高状況(12/1月)

	(億円)
1日	200
2日	210
3日	205
⋮	⋮
29日	280
30日	290
31日	300
計	8,835

未残はその月の最終日(ここでは31日)の残高をみます。

##### 平残の求め方

(毎日の残高の合計) ÷ (当該月の日数) = (平残)  
8,835億円 ÷ 31日間 = 285億円

平残は当該月の貸出残高(ここでは8,835億円)の平均値のことをいいます。

答え. ×銀行の12/1月の未残300億円、平残285億円

## 貸出約定平均金利

金融機関と顧客との間の契約に基づいて定められた貸出金利について、各金利階層別の貸出残高により加重算術平均の手法を用いて算出した平均金利のこと。直近月末時点における総貸出残高を基に算出したものを「ストックベース」、直近月中（1ヵ月間）に新たに実行された貸出残高のみを対象に算出したものを「新規ベース」という。

### 貸出約定平均金利の求め方

ここでは、12/1月における ×銀行の貸出約定平均金利(ストックベース)について説明します。

各金融機関は、貸出先の信用度などに応じて貸出約定金利を設定していますが、×銀行では、貸出先を各々の条件に応じてA～Cの3つの金利に設定しているものとします。

×銀行の金利階層別貸出残高(12/1月末)

	貸出約定金利 (%)	貸出残高 (億円)
A	1.50	100
B	2.00	150
C	2.50	200
合計		450

約定平均金利は各階層別の加重算術平均を用いて算出することから、

$$\frac{(A金利 \times A貸出残高) + (B金利 \times B貸出残高) + (C金利 \times C貸出残高)}{\text{総貸出残高}}$$

⇒  $\frac{(1.50\% \times 100\text{億円}) + (2.00\% \times 150\text{億円}) + (2.50\% \times 200\text{億円})}{450\text{億円}} = 2.11\% (\%)$

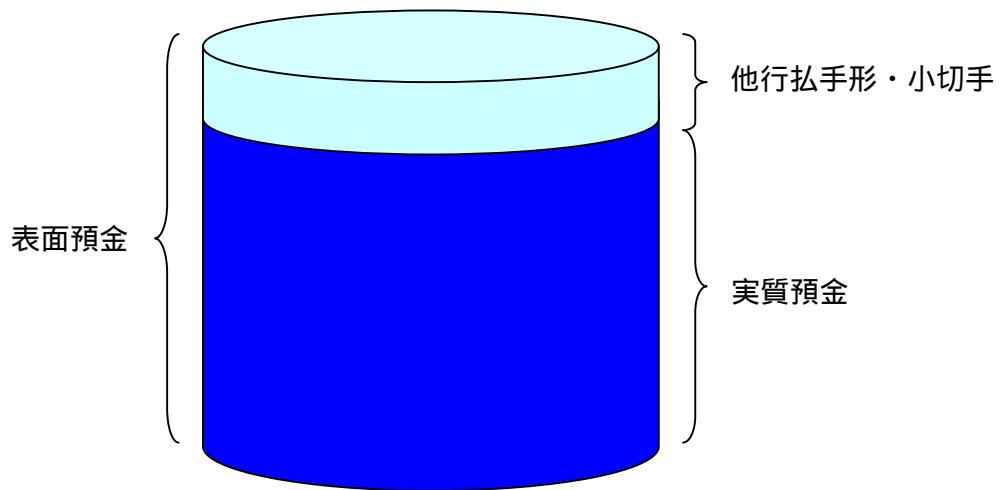
**答え、×銀行の12/1月の貸出約定平均金利(ストックベース)は2.11%**

## 表面預金（総預金）

顧客から、預金として他行払の手形や小切手を受け入れた場合、これらの手形や小切手は手形交換決済を経なければ資金として確定しないが、帳簿上は受入日の預金として反映される。資金化が確定していない他行払の手形や小切手を含んだ預金計数を表面預金という。

## 実質預金（純預金、ネット預金）

の表面預金から、まだ資金化が確定していない他行払の手形・小切手金額合計を差し引いたものを、実質預金という。



以 上